

本校は、沖縄県立北部農林高等学校として72年の歴史を数え、前身の甲種国頭郡各間切島組合立農業学校まで遡ると117年を数える伝統のある高等学校であり、産業界・地域社会を支える数多くの人材を輩出してまいりました。

近年、農業の分野に目を向けると、農産物の輸入自由化や環境問題、消費者の食の安全・安心に対する関心の高まりなど、農業を取り巻く情勢は大きく変化しております。しかし、沖縄の農業は亜熱帯気候、地理的特性、多様な地域資源を有し、限りない可能性を秘めており、これらの優位性を活かした農業の展開が大きく期待されております。実際、本県の昨年度農業産出額は1000億円を突破し、伸び率でも全国1位、生産農業所得は全国8位となり今後の成長を期待させてくれる状況にあります。そのような中、農業の発展・振興を図るためには人材育成が大きな鍵を握っていることは言うまでもありません。



本校では、時代の変化に対応した学科改編やコース制をいち早く導入し、全国唯一の熱帯農業科をはじめ、各科で先端技術を取り入れた授業を行っています。皆さんに広く愛されている北農ブランド豚「チャーグー」はその成果のひとつです。

一方で、昨年度の進路実績を見ると、8割が進学、2割が就職であり、専門に関連した建設・整備・畜産・看護・医療・保育・福祉・ホテル観光・食品・飲食など多様な進学・就職の実績があります。

農林高校の授業は、仲間と協働し合いながら多くのことを学びます。生き物を扱い、生命への感謝を学びます。本校で身についた力や感性・専門的技術は、必ず社会を生き抜くうえで役立ちます（「実学＝ものづくりで人づくり」）。

本校の校訓である「自主・創造・勤勉」の精神の元、生徒一人一人が、社会の変化に柔軟に対応できる「生きる力」を育み、グローバル（グローバル＋ローカル）な視点で、世界基準で物事を考え、かつ地域社会に目を向けられる人材の育成を目指し、全職員一丸となって取り組んでいきます。

